科学を支え、
未来へつなぐ

科学技術振興機構報　第 1884 号

2026（令和 8）年 11 月 5 日
科学技術振興機構（JST）

「第 14 回科学の甲子園ジュニア全国大会」出場チームが決定

～28,924 人の中学生から選出された代表チームが科学の力を競う
21 の企業・団体が科学好きな生徒を育てるため本大会を支援～

JST（理事長　橋本　和仁）は、科学好きの裾野を広げるとともに、次世代の科学技術・イノベーションの創出を担う優れた人材の育成を目的として、全国の中学生が都道府県を代表して科学の力を競う「第 14 回科学の甲子園ジュニア全国大会」を 2026 年 12 月 11 日（金）から 12 月 13 日（日）まで、アクリエひめじで開催します。このたび、出場する全都道府県の代表チームが決定しました。

本大会は、全国の中学生が科学と実生活・実社会との関連に気付き、科学を学ぶことの意義や楽しさを実感できる場として開催しています。本大会では、各教育委員会が実施した都道府県大会で選出された 47 の代表チームが、6 人 1 チームで理科や数学などの複数分野にわたる「筆記競技」と「実技競技」に取り組み、総合点を競います。各地での都道府県大会には、総計 1,112 校、28,924 人の生徒が参加しました。

また、本大会は産学官が一体となった新たな科学技術系人材育成モデルとして設計されており、この趣旨に賛同した 21 の企業および団体が、協賛または応援機関として本大会を支援することが決定しています。

なお、開会式の選手宣誓は、抽選によって決定した京都府代表チームが務めます。開会式を含む大会プログラムの一部は、一般の方も会場またはライブ配信にて観覧いただけます。

JST では、発達段階に応じて生徒の才能を伸ばせるよう体系的な人材育成に取り組んでいます。「科学の甲子園ジュニア全国大会」や、高校生を対象とした「科学の甲子園全国大会」などの事業を通じて、科学好きの裾野を広げ、生徒が活躍する機会を提供していきます。

大会の概要や出場チームの詳細は、別紙および以下のウェブサイトをご参照ください。

日程：2026 年 12 月 11 日（金）～13 日（日）
場所：アクリエひめじ（姫路市文化コンベンションセンター）
（兵庫県姫路市神屋町 143-2）
URL：https://koushien.jst.go.jp/koushien-Jr/

＜添付資料＞

別紙 1：「第 14 回科学の甲子園ジュニア全国大会」都道府県代表チーム一覧
別紙 2：「第 14 回科学の甲子園ジュニア全国大会」協働パートナー一覧
参　考：「第 14 回科学の甲子園ジュニア全国大会」開催概要

＜お問い合わせ＞

＜事業に関すること＞

科学技術振興機構 理数学習推進部 才能育成グループ

鈴木 ソフィア沙織（スズキ ソフィアサオリ）、兵子 智子（ヒョウゴ トモコ）

〒332-0012 埼玉県川口市本町 4 丁目 1-8 川口センタービル

Tel：048-226-5665

E-mail：koushien-jr@jst.go.jp

＜報道に関すること＞

科学技術振興機構 広報課

〒102-8666 東京都千代田区四番町 5-3 サイエンスプラザ

Tel：03-5214-8404　Fax：03-5214-8432

E-mail：jstkoho@jst.go.jp

＜科学を支え、未来へつなぐ＞

例えば、世界的な気候変動、エネルギーや資源、感染症や食料の問題。私たちの行く手にはあまたの困難が立ちはだかり、乗り越えるための解が求められています。JST は、これらの困難に「科学技術」で挑みます。新たな価値を生み出すための基礎研究やスタートアップの支援、研究戦略の立案、研究の基盤となる人材の育成や情報の発信、国際卓越研究大学を支援する大学ファンドの運用など。JST は荒波を渡る船の羅針盤となって進むべき道を示し、多角的に科学技術を支えながら、安全で豊かな暮らしを未来へとつなぎます。

JST は、科学技術・イノベーション政策推進の中核的な役割を担う国立研究開発法人です。

別紙 1

「第 14 回科学の甲子園ジュニア全国大会」都道府県代表チーム一覧

都道府県	学校名
北海道	北海道教育大学附属旭川中学校、市立札幌開成中等教育学校
青森県	青森県立三本木高等学校附属中学校、弘前市立第一中学校
岩手県	奥州市立水沢中学校
宮城県	宮城県仙台二華中学校
秋田県	秋田県立秋田南高等学校中等部
山形県	山形大学附属中学校
福島県	福島県立安積中学校、福島大学附属中学校
茨城県	茨城県立日立第一高等学校附属中学校、茨城県立並木中等教育学校
栃木県	白鷗大学足利中学校
群馬県	群馬大学共同教育学部附属中学校、東京農業大学第二高等学校中等部
埼玉県	栄東中学校、埼玉大学教育学部附属中学校
千葉県	市川学園市川中学校
東京都	渋谷教育学園渋谷中学校、筑波大学附属駒場中学校
神奈川県	横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校附属中学校、聖光学院中学校
新潟県	新潟大学附属長岡中学校、上越教育大学附属中学校
富山県	富山大学教育学部附属中学校、黒部市立明峰中学校、魚津市立西部中学校 富山市立八尾中学校、富山市立南部中学校、片山学園中学校
石川県	小松市立芦城中学校、金沢市立野田中学校
福井県	福井県立高志中学校、鯖江市鯖江中学校
山梨県	山梨学院中学校、駿台甲府中学校
長野県	長野県屋代高等学校附属中学校、長野県諏訪清陵高等学校附属中学校
岐阜県	岐南町立岐南中学校、岐阜市立長良中学校
静岡県	静岡大学教育学部附属浜松中学校、静岡大学教育学部附属島田中学校
愛知県	海陽中等教育学校
三重県	高田学苑高田中学校、桑名市立明正中学校
滋賀県	滋賀大学教育学部附属中学校、滋賀県立守山中学校
京都府	京都府立洛北高等学校附属中学校、京都府立南陽高等学校附属中学校
大阪府	高槻中学校、大阪教育大学附属平野中学校
兵庫県	夙川中学校、神戸市立鷹匠中学校
奈良県	東大寺学園中学校

都道府県	学校名
和歌山県	和歌山県立桐蔭中学校、開智中学校
鳥取県	鳥取大学附属中学校、三朝町立三朝中学校
島根県	島根大学教育学部附属義務教育学校、出雲市立浜山中学校
岡山県	岡山県立岡山大安寺中等教育学校、岡山学芸館清秀中学校
広島県	広島学院中学校
山口県	宇部フロンティア大学付属中学校、山口大学教育学部附属山口中学校
徳島県	鳴門教育大学附属中学校、徳島文理中学校
香川県	高松市立桜町中学校、高松市立玉藻中学校、香川大学教育学部附属高松中学校、香川大学教育学部附属坂出中学校
愛媛県	愛光中学校、宇和島市立城東中学校
高知県	高知市立南海中学校、土佐中学校
福岡県	久留米大学附設中学校、福岡市立東住吉中学校
佐賀県	佐賀大学教育学部附属中学校
長崎県	青雲中学校
熊本県	熊本大学教育学部附属中学校
大分県	平松学園向陽中学校、大分大学教育学部附属中学校
宮崎県	宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校
鹿児島県	鹿児島大学教育学部附属中学校
沖縄県	沖縄県立開邦中学校、沖縄県立球陽中学校

別紙2

「第14回科学の甲子園ジュニア全国大会」協働パートナー一覧

（五十音順・予定含む）

No.	協賛企業・団体
1	株式会社内田洋行
2	株式会社エムス・テック
3	株式会社学研ホールディングス
4	ケニス株式会社
5	株式会社ジー・サーチ
6	株式会社島津製作所／株式会社島津理化
7	スカパーJSAT株式会社
8	スリーエム ジャパン株式会社
9	帝人株式会社
10	テクノプロ・グループ
11	トヨタ自動車株式会社
12	株式会社ナリカ
13	公益財団法人日本科学協会
14	公益社団法人日本理科教育振興協会
15	ノーリツ鋼機株式会社
16	公益財団法人ひょうご科学技術協会
17	UBE三菱セメント株式会社
18	株式会社リソー教育グループ

No.	応援企業・団体
1	サントリーホールディングス株式会社
2	公益財団法人日本発明振興協会

参考

「第 14 回科学の甲子園ジュニア全国大会」開催概要

1. 目的

第 14 回科学の甲子園ジュニア全国大会（以下、「全国大会」という。）は、理科、数学などの複数分野にわたる競技に協働して取り組むことを通じて、全国の中学生が科学の楽しさ、面白さを知り、科学と実生活・実社会との関連に気付き、科学を学ぶことの意義を実感できる場を提供することによって、科学好きの裾野を広げるとともに、未知の分野に挑戦する探究心や創造性に優れた人材を育成することを目的とします。

2. 実施・協力体制

(1) 主催　科学技術振興機構（JST）
(2) 共催　兵庫県、兵庫県教育委員会、姫路市、姫路市教育委員会
(3) 後援　文部科学省、全日本中学校長会、全国中学校理科教育研究会、
　　公益社団法人日本理科教育振興協会
(4) 都道府県教育委員会および協働パートナーの協力を得て開催

3. 開催日程

(1) 2026 年 12 月 11 日（金）～13 日（日）
(2) 大会の日程は以下の通り
　　12 月 11 日（金）　開会式、オリエンテーション
　　12 月 12 日（土）　筆記競技、実技競技、フェアウェルパーティー
　　12 月 13 日（日）　協働パートナーなどによるブース展示、表彰式

4. 場所

アクリエひめじ（姫路市文化コンベンションセンター）
（兵庫県姫路市神屋町 143-2）

5. 出場チーム

(1) 全国大会出場チームは、学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）に定める中学校、義務教育学校後期課程、中等教育学校前期課程、特別支援学校中学部（以下、「中学校など」という。）に所属する生徒で構成します。なお、構成員は中学校などでの通算在籍が過去の在籍も含め 2 年未満の生徒とします。
(2) 全国大会出場チームの員数は 6 人とします。
(3) 全国大会出場チームは単一校のほか、複数校での編成を認めます。
(4) 全国大会出場チームは、1 都道府県 1 チームとし、全ての都道府県から出場するものとします。
(5) 各都道府県教育委員会は都道府県大会を行うなどにより、全国大会出場チームを選出します。その選出方法は当該都道府県教育委員会の定めるところによります。

6.　競技の種類

全国大会では、筆記競技と実技競技を行います。

(1)　筆記競技

理科、数学などの複数分野において、実生活・実社会との関連、融合領域に配慮した出題とし、生徒の習得済みの知識に加え、競技に必要な新たに示された情報を統合することで課題を解決します。

(2)　実技競技

ものづくりの能力、コミュニケーション能力などを用いて課題解決能力を競います。

7.　競技の形式

筆記競技は 6 人 1 チーム、実技競技は 3 人 1 チームで、課題を分担、相談するなど協力して成果を競います。競技数、競技者数、配点比率および競技時間は以下の通りです。

種　目	競技数	競技者数	配点比率	競技時間
筆記競技	1 競技	6 人／1 競技	筆記競技と実技競技の配点比率は 1：2 とします。	70 分程度
実技競技	2 競技	3 人／1 競技		競技ごとに決定

8.　表彰など

(1)　各競技の成績点数の合計によって優勝チームを決定します。

(2)　優勝チームに文部科学大臣賞を授与するほか、成績上位チームについても表彰します。

(3)　主催者は協賛企業を募り、その他の表彰を行います。

(4)　成績上位の出場チームについては、その成績を公表します。

以上